



ナイチンゲールとの再会

練馬区整形外科医会会長 関町病院院長 丸山 公 (関)

最近、メディアを通じてクリミア情勢のことが頻回に話題となるため、ナイチンゲールのことを思い浮かべた方も多いと思われる。私もその一人である。

約10年も前になるが、日本整形外科学会 (JOA) の中に診断評価等基準委員会が設置され、傘下の各学会に対しQOL評価を含めた患者立脚評価法を作成するよう勅命が下った。

当時私は、日本肩関節学会内のJOAスコア再検討委員会という評価法を作成・検討する委員会に所属しており、必然的にこの委員会が肩関節の患者立脚評価法作成の下請けとなった。

日本整形外科学会の要求は、①患者立脚評価であること②QOL評価を含むこと③計量心理学的手法 (Validation study) を用いること④日本独自であり、国際的に通用すること⑤誰もが容易に使用出来ることであつた。

当時委員長を拝命されていた私は、何をするようにして評価法を作成するのか雲を掴むような状態であつたが、専門家の協力を得ながら約7年の歳月を要して、3年前にようやく患者立脚肩関節評価法 “Shoulder 36 Ver. 1.3” を完成した。その際、QOL評価とは何ぞやと調べて行く過程で、ナイチンゲールと出会つたのである。(図1)

ナイチンゲールと言えば、クリミア戦争で献身的な看護をした「クリミアの天使」と学校で習つた。私などひどいもので、某製薬メーカーの外用薬のマスコットキャラクターのリトルナースがナイチンゲールだと勝手に思い込んでいた。

また、クリミアが地図上の何処にあるの



図1 Florence Nightingale
(1820-1910) (ウィキペディアより)

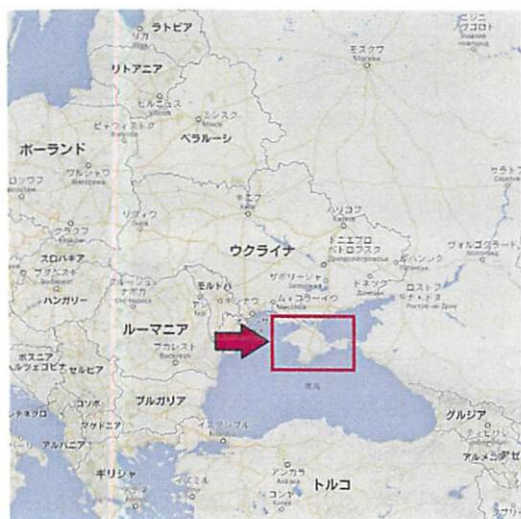


図2 クリミア周辺地図（ウィキペディアより）

か、ナイチンゲール以外の看護婦も献身的に働いただろうに、何故ナイチンゲールだけが有名なのか疑問を抱きながらも調べることもしなかった。（図2）そこで今回調べた結果をご披露したい。

Florence Nightingale は英国人であるが、1820年5月12日に両親の新婚旅行中にイタリアのフィレンツェで生まれた。新婚旅行中に生まれたとなると…とあらぬ詮索をしたくなるが、とても裕福な家庭であり、新婚旅行は2年間に及んだというから我々日本人の想像を超えている。

フィレンツェ生まれのため、その英名であるフローレンスと名付けられたらしい。フランス語、イタリア語、ギリシャ語、ラテン語を習得し、プラトン哲学、天文学、数学、経済学、地理、心理学のほか芸術も姉と共に勉強したというから凄い。

近代看護教育の母として有名であるが、これは31歳の時にドイツの病院において、看護婦に対する教育を学び、クリミア戦争終結後に集まったナイチンゲール基金を用いて、ロンドンのセント・トーマス病院内にナイチンゲール看護学校を創ったことに起因する。

クリミア戦争は、18世紀末から19世紀にかけて衰退の一途を辿るオスマン・トルコ帝国にロシアが南下侵略した戦争のひとつであるが、英仏の権益を侵害するに至って1853年英仏が参戦し、その結果オスマン帝国側が勝利したものである。死傷者は双方合わせて90万人に及んだとされている激戦であり、かのトルストイも「セヴァストポリ物語」でその凄惨な状況を描いている。

さらに負傷兵の扱いは悲惨な状態であり、後方のスクタリ病院内での死亡率は40%を超えた。英国のシドニー・ハーバード戦時大臣の要請により、ナイチンゲールはシスター24名、職業看護婦14名の計38名を引き連れて、スクタリ病院の看護婦長として赴任した。ナイチンゲールは死傷者の状態を統計学的に分析し、病院の衛生状態に問題点を見出し、その改善に努めた。その結果、6か月後には死亡率が5%にまで減少したと言われる。不衛生状態による感染症が大きな死因だったのである。

夜回りを欠かさないことから「ランプの貴婦人」とも呼ばれたように献身的に看護したことも事実であるが、献身的に働いたのは彼女だけではなかったであろう。

終戦後、英国に戻ったナイチンゲールは、クリミア戦争負傷者の統計学的資料を作っ

た。そのため、英国では彼女が、医療統計や QOL 評価を確立した人物と評されているのである。

ちなみに、クリミア戦争に敗北したロシアは、財政再建のためにアラスカを米国に売却する羽目になった。また、敗戦は東方での南下政策にも支障を来たし、日本への来航は米国のペリーの後塵を拝し、日米和親条約締結に遅れること 1 年、1855 年に日露和親条約を下田で締結することになる。

最近、クリミアのロシア編入が大きな問題としてニュースで取り上げられている。クリミアは、第二次大戦中はドイツに占領され、その後 1954 年にロシア・ソビエト連邦社会主義共和国からウクライナ・ソビエト社会主義共和国へとソ連構成国間の移管が行われ、さらに 1991 年のソビエト連邦崩壊により独立したウクライナ共和国に編入された。クリミアの住民の大半はロシア系住民であり、現在も自治共和国となっており、5 月に親口的なドネツク人民共和国として独立するかどうかの住民投票が予定されている。

ウクライナ半島先端にあるセヴァストポリは、黒海とボスフォラス海峡を通じて地中海に通じる重要な不凍港であり、ロシアにとってもウクライナにとっても譲れない重要な拠点であり、そのことがクリミア問題をさらに複雑にしている。ナイチンゲールは、天国からこの問題の成り行きをどのように見守っているのでしょうか。春の夜更けにワイングラスを傾け、美しい黒海の情景を思い浮かべながらウクライナ問題を考えてみた。